

発展、ともに前へ...
洛和会ヘルスケアシステム
洛和会丸太町病院 洛和会音羽病院
洛和会美ささぎ病院 洛和会みささぎ病院

2015年4月1日 新病院開設

洛和会音羽 リハビリテーション病院

機能回復と社会復帰を目指して!



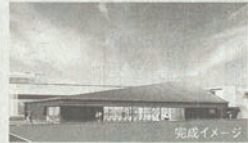
完成イメージ

※洛和会みささぎ病院は新たに、洛和会音羽リハビリテーション病院へ名称を変更し、2015年4月1日にオープンします。

「確かな医療」
「充実のリハビリ」
「安心できる療養」を実現

お問い合わせ先
洛和会みささぎ病院
TEL 075 (581) 6221 (代)

2015年4月1日開設!
丸太町リハビリテーションクリニック



けがの治療から、競技復帰
障害予防までをサポート

お問い合わせ先
丸太町リハビリテーションクリニック事務局
TEL 075 (801) 0351 (代)

<http://www.rakuwa.or.jp/>

らくわかい

検索

広告

健やかな社会生活に導く

リハビリテーション医療

病气やケガによる入院治療のあと、すみやかな社会復帰に向けた機能回復治療を専門で行うリハビリテーション病院。一人ひとりが抱える障がいに応じたメニューを組んで対応することで、充実した社会生活の実現をサポートします。京都市内にリハビリテーション病院を新たに開設する洛和会みささぎ病院院長の木村透さんと同病院リハビリテーション科部長の兼松まどかさん、そして幼い頃の重大事故を克服し、シンクロナイズドスイミング代表として北京五輪に出場された石黒由美子さんに、リハビリ医療の重要性についてお話をうかがいました。



「自動車事故で数々の障がいを負う」

木村石黒さんは小学生の頃に重大事故に遭われたそうで、石黒母の運転する車に乗り込んでシートベルトを締めようとした時、対向車が正面から突っ込んできました。私は頭からフロントガラスにぶつかり、全身にガラス片が刺さったそうです。右の頬は裂け、顔面粉砕骨折、眼球打撲、網膜剥離、視力や聴力に障がいが残りました。事故前の記憶は今も戻っていません。

木村それはつらいご経験でしたね。どのくらい入院されたのですか？

石黒半年ほどです。医師や看護師さんにはできる限りのことをしてくださいでしたが、これ以上病院としてできることはないと言われ、退院後は母が独学で視力や聴力の回復のために何ができるか考えてくれました。

兼松大変なことだったと想像しますが、どのようなことをされたのですか？

石黒弟や妹と影踏みや石蹴りをして反射神経や平衡感覚

を養ったり、視野狭窄キョウキョウに対しては車窓から看板の文字を読み取ったり、遊び感覚で機能回復の訓練ができました。失語もあつたので、家では朗読CDを流していましたね。

「引きこもりや寝たきりを生まないために」

兼松石黒さんが事故にあわれた当時の25年ほど前は、リハビリテーションに熱心に取り組む病院はまだ限られていました。病院の役割としては、命を救うという急性期医療にほとんど留まっていたわけですね。

木村その場合、病气やけがの治療を終えて退院しても、後遺症のためにスムーズに社会復帰できず家にこもりがちになったり、高齢者の場合だと寝たきりになってしまいうケースが多かったのです。

石黒障がいが残ったため養護学校への転校を勧められましたが、母は何としても元の学校に通わせたいという思いで取り組んでくれました。

木村そこから五輪に出られるまでには、並々ならぬこ



木村透氏
洛和会みささぎ病院院長
京都大学医学部卒業。京大病院で臨床研修後、静岡県立中央病院神経内科、京都大学医学部神経内科、ウィーン大学神経研究所を経て京都大学にて医学博士修得。1987年より洛和会音羽病院神経内科、2009年より現職。



兼松まどか氏
洛和会みささぎ病院リハビリテーション科部長
旭川医科大学卒業。同大学整形外科教室にて研修。京都大学大学院医学研究科中退。洛和会音羽病院整形外科、同病院リハビリテーション科勤務後、兵庫医科大学リハビリテーション医学教室、NPO法人CRASEEDIにて研修をつみ、2010年より現職。



石黒由美子氏
シンクロナイズドスイミング競技日本代表
名古屋出身。小学2年生のときに交通事故に遭い540針以上縫う大けがを負うも、数々の障がいと闘いながら翌年シンクロナイズドスイミングを始める。2008年北京五輪代表に選出。チーム5位入賞の成績を残す。著書に『奇跡の夢ノート』がある。

苦勞と努力があつたでしょうね。

「チーム医療で早期社会復帰を支援」

木村リハビリテーション病院の大きな特長は、入院の原因となった個々の障がいを治療するだけでなく、リハビリテーション専門医を中心としたチーム医療によって、患者さまがより良い形で社会や家庭に復帰するはどうかというのを、総合的に考え、サポートするところにあります。また、充実した医療機器／技術によるリハビリテーション治療も、患者さまの状態に応じて取り入れられつつあります。

兼松患者さまへのメンタルケアも欠かせません。臨床心理士によるサポートや音楽療法などのプログラムも取り入れる予定です。

石黒当時、母は手探りで行っていましたが、状況はかなり改善されてきたのですね。

木村そうですね。患者さまたちがすみやかに社会復帰できるように環境作りを考えています。